

平成27年度 新潟県立歴史博物館 講座のご案内

(後期:2015年10月～2015年3月)

期日	曜	時間	講座名	講師	内容	対象	定員	会場	持ち物等	申込方法
10月4日	日	13:30～15:00	講演会 「アムール河の古代遺跡と先住民族の神話・世界観」	佐々木 史郎 氏 (国立民族学博物館 先端人類科学研究部 教授)	ロシア連邦極東地域を流れるアムール河流域に残された多くの岩面画を、この地域の先住民のひとは、自分たちの神話・世界観と結びつけ、大切にしてきました。国立民族学博物館巡回展「岩に刻まれた古代美術」をより深く鑑賞できるように、アムール河流域の先住民の神話・世界観を紹介します。	一般	150	講堂	—	電話、葉書、 FAX、メール
10月10日 17日 24日 31日	土	13:30～15:00	講座 「楽しい古文書講座 初級編(全4回)」	田邊 幹 (当館主任研究員)	基本的な文字のくずしや言い回しなどについて学び、古文書に親しみます。対象者は古文書初級者とします。(なお、古文書講座経験者は、11月以降開催予定の「楽しい古文書講座(中級編)」を受講してください。)	一般	35	研修室	—	電話、葉書、 FAX、メール
11月7日 14日 21日 28日	土	13:30～15:00	講座 「楽しい古文書講座 中級編(全4回)」	前嶋 敏 (当館主任研究員)	江戸時代の越後の人々のくらしがわかるような古文書を教材とし、古文書解読とともに文書の社会的背景を解説しながら、わかりやすく、親しみやすい講座を目指します。なお、対象者は古文書中級者とします。	一般	35	研修室	—	電話、葉書、 FAX、メール
11月8日	日	13:30～15:00	シリーズ「運ぶ」 「縄文時代の舟」	西田泰民 (当館学芸課長)	舟は縄文時代唯一の乗りものと考えられ、丸木舟の出土が各地で報告されています。材料となる木材や形状の時代差や地域差が明らかになりつつあります。また、どの程度の積載量があったのか復元を試みます。	一般	50	研修室	—	電話、葉書、 FAX、メール
12月5日	土	13:30～15:00	講座 「樹木の霊性をさぐる1 ヌルデ編」	三国信一 (当館主任研究員)	年中行事などで利用される樹木の種類は多く、その霊性にもさまざまなものがあります。今回は、県内の年中行事などにおいても、広く利用されているヌルデ(カツノキ等とも)という樹木に注目し、利用方法と樹木に対する人々の認識から、ヌルデの霊性をさぐります。	一般	50	研修室	—	電話、葉書、 FAX、メール
12月12日	土	13:30～15:00	講座 「樹木の霊性をさぐる2 アカメガシワ編」	三国信一 (当館主任研究員)	年中行事などで利用される樹木の種類は多く、その霊性にもさまざまなものがあります。今回は、県内の一部地域の年中行事において利用が確認されているアカメガシワという樹木に注目し、利用方法と樹木に対する人々の認識から、アカメガシワの霊性をさぐります。また、県内で広く利用されてきたヌルデ(カツノキ等とも)との比較も試みます。	一般	50	研修室	—	電話、葉書、 FAX、メール
12月19日	土	13:30～15:00	講座 「博物館学人物伝・その6 『江戸時代の蒐集家と博物館』」	山本 哲也 (当館専門研究員)	平成23年度にスタートした「博物館学人物伝」の第6回です。今回は博物館として成立するために必要な「蒐集＝収集(コレクション)」という機能に焦点をあてます。薩摩藩主・島津重豪(しげひで)など、江戸時代の「蒐集家」の人柄、コレクションやその保管・公開の様子などを確かめます。(「収集」はかつて、草をかぶってカムフラージュし、心を鬼にしてモノを集めるという意味で、「蒐集」と書きました。)	一般	50	研修室	—	電話、葉書、 FAX、メール
1月23日	土	13:30～15:00	講座 「縄文時代の道具立て」	西田 泰民 (当館学芸課長)	縄文時代に使われた道具の種類や量はどんな民族の道具と類似しているのか検討します。また、生活用品の分類から改めて道具を見直してみると、出土物には何が欠けているのかがよくわかります。出土しないがあったはずの道具についても検討します。	一般	50	研修室	—	電話、葉書、 FAX、メール

期日	曜	時間	講座名	講師	内容	対象	定員	会場	持ち物等	申込方法
1月30日	土	13:30～15:00	講座 「火焰土器の鶏頭冠をつくる」	宮尾 亨 (当館専門研究員)	新潟県の縄文時代中期(約5000年前)、火焰型土器の鶏頭冠や文様の作り方を出土品から探り、縄文時代と同じ手順で製作します。製作素材に紙粘土を使用しますので、手軽に製作の手順を実習できます。	一般	20	研修室	—	電話、葉書、FAX、メール
2月6日 13日	土	13:30～15:00	講座 「現代に生きる火焰土器(前編・後編)」	宮尾 亨 (当館専門研究員)	発掘された考古資料は、過去の研究に資するだけでなく、現代社会の中にさまざまなかたちで寄与しています。現代社会の中で利用される考古資料の意味を考えます。	一般	各回 50	研修室	—	電話、葉書、FAX、メール
2月20日	土	13:30～15:00	シリーズ「運ぶ」 「出稼ぎと運びの文化 —山古志を事例に—」	陳 玲 (当館主任研究員)	「出稼ぎによる人々の移動に注目すると、それに伴って、モノが運ばれたり、情報が伝達されたりしています。雪国の山村では、このような人・モノ・情報の動きの様子がよく分かります。主として長岡市・山古志地区の事例を紹介しながら、解説します。」	一般	50	研修室	—	電話、葉書、FAX、メール
2月27日	土	(一般) 10:30～12:00 (親子) 13:30～15:00	講座 「作ってみよう 『本格まが玉』(冬の部)」	山本 哲也 (当館専門研究員)	一般に体験用として使う滑石(かっせき=硬度1)ではなく、やや硬い石材(硬度3)を使い、また、昔の製作技法も一部取り入れながら、ちょっとだけ本格的なまが玉作りを体験します。なお、「一般向け」は中学生以上で個人参加が可能、「親子向け」は「保護者と小学生以下の組み合わせ」で複数名での参加を原則とします。当館ショップにて販売する「青田石」を購入してから参加してください。(300円で販売予定)	一般・ 親子	(一般) 15 (親子) 30	研修室	青田石 (内容を参照)	電話、葉書、FAX、メール
3月6日	日	13:30～15:00	講演会 「水中考古学入門」	岩淵 聡文 (東京海洋大学大学院教授)	国際条約発効などを受けて、近年国内外で飛躍的な発展をとげつつある、水中文化遺産を研究する「水中考古学」について紹介します。	一般	150	講堂	—	電話、葉書、FAX、メール
3月12日	土	13:30～15:00	シリーズ「運ぶ」 「博物館資料を『運ぶ』」	山本 哲也 (当館専門研究員)	博物館では、一般には出来上がった展示しか目にしないでしょうが、その前にまず「運ぶ」必要があります。そのためにはさまざまな配慮が必要です。博物館の活動の一部としての「運ぶ」について解説します。	一般	50	研修室	—	電話、葉書、FAX、メール
3月26日	土	13:30～15:00	シリーズ「運ぶ」 「カミとホトケを運ぶ」	大楽 和正 (当館主任研究員)	祭りの神輿や盆の精霊舟は神仏を運び、移動させるための祭具です。神仏を運ぶ祭具や儀礼などを通して、日本人の神観念や靈魂観を考えます。	一般	50	研修室	—	電話、葉書、FAX、メール

<申込方法・手続き>

- ・申込方法は、「電話」「葉書」「ファックス」または「メール」での申込となります。いずれも、希望講座名、お名前、住所、電話番号の4項目を明記してください。
- * 講師都合等による実施日の延期(中止)ということがあります。その際、申込者にはご連絡をいたしますが、お申込されていない方へはご連絡できませんので、ご注意ください。

※ 申込先

〒940-2035 新潟県長岡市関原町1丁目字権現堂2247番2 新潟県立歴史博物館 経営企画課
TEL:0258-47-6135 FAX:0258-47-6136 メール:koryu@nbz.or.jp

※ お申し込みいただいた際の個人情報、今後の講座や講演会・イベント等のご案内に使用させていただくことがあります。

携帯電話からの申し込みメールはこちらからのQRコードをご利用ください。

